

文語日誌（平成三十年六月二十五日）

土屋 博

指揮者朝比奈隆の藝術

一「オーケストラそれは我なり 朝比奈隆四つの試練」中丸美繪著（文藝春秋社、二〇〇八年刊）
生誕百年記念出版の一つなり。著者中丸美繪は一九五五年生れ、慶應大學英文科卒。オペラ歌手三千繪の姉に當る。

朝比奈隆は一九〇八年東京市ヶ谷に生れ、二〇〇一年に歿す。官立七年制の東京高等學校文乙の同級生には、平井富三郎、日向方齋、清水幾太郎、宮城音彌あり。篠島秀雄はヴァイオリン仲間なり。露西亞人指揮者メッテル氏に師事するため京都帝國大學法學部に入學す。卒業後、一旦阪急電鐵に勤むるも二年後退社し、哲學科に學士入學するなど、紆余曲折を経つつ、昭和十五年、プロ指揮者としてデビューす。上海・哈爾濱にても指揮者として活躍し、引き揚げ後、昭和二十二年大阪フィルの母體となる關西交響樂團を結成す。音樂學校にて専門教育を受けたることなきにも拘らず有名指揮者となりたる例は極めて稀なりと覺ゆ。

本書副題の「四つの試練」とは、左の如し。

「第一の試練」は隠されたる出自なり。氏は、朝比奈の両親の死ぬるまで、自分の貰ひ子なることを知らざりし由なり。育ての親は、東大工學部卒の鐵道院の役人。一方、實の父親は、その世界のドンたる「日本土木史の父」として著名なる渡邊嘉一氏なりき。（實母は其の妾）

「第二の試練」は、上海の榮光と滿洲引き揚げ。「第三の試練」は、NHK大阪中央放送局との確執。「第四の試練」は、九十二年大阪フィルのストライキに關するエピソードなど。

二 朝比奈隆のDVD

◎大阪フィルとのブルックナー

五番（一九九八年七月十六日）九十歳記念

七番（一九九九年十一月五日サントリーホール）九十一歳

八番（二種類）。一九九四年七月九日八十六歳バースデイ及び二〇〇一年七月廿五日九十三歳）

九番（二〇〇一年九月廿四日）九十三歳

○大阪フィルとのベートーヴェン全集BOX（一九九六年より一九九七年まで）

○大阪フィルとの最後のベートーヴェン全集BOX（二〇〇〇年）

○大阪フィルとのブラームス交響曲全集（一九九四年より一九九五年まで）

○大阪フィルとのマラー復活（一九九五年七月八日）八十七歳バースデイ

○新日フィルとのブラームス交響曲・協奏曲全集BOX（一九九〇年）

◎新日フィルとのブルックナー交響曲選集 三番、四番、五番、七番、八番（一九九二年より一九九三年まで）

◎NHK交響樂團とのBOX（ブルックナー、ベートーヴェン）

◎シカゴ交響樂團とのブルックナー五番（一九九六年五月）八十七歳

改めて朝比奈氏の得意とする三B（ベートーヴェン、ブルックナー一八二四年生、ブラームス一八三三年生）の指揮ぶりを遺したるビデオを鑑賞するに、無骨ながら、日本人の西洋文化攝取に格闘する姿

には感動を覚えざるべからず。

就中NHK交響楽団のBOXには、リハーサル、インタビューほか、特典映像多数含まれ、彼の人柄偲ぶ。ビデオ製作者の朝比奈への深き敬愛を如實に示す。

小生、歐羅巴の本場のクラシック音楽とはやや毛色の異なる気もせし爲、これまで餘り朝比奈の世に觸るる機会なかりしかど、今見るに、高齢化社會に希望を與ふる効果、絶大なりと感ず。特に死の二、三か月前の九十三歳のブルックナー九番の指揮ぶりには鬼氣迫るものあり。

(平成三十年七月七日受附)

